

新潟市新焼却施設整備事業
～亀田清掃センター更新～

環境影響評価書の あらまし

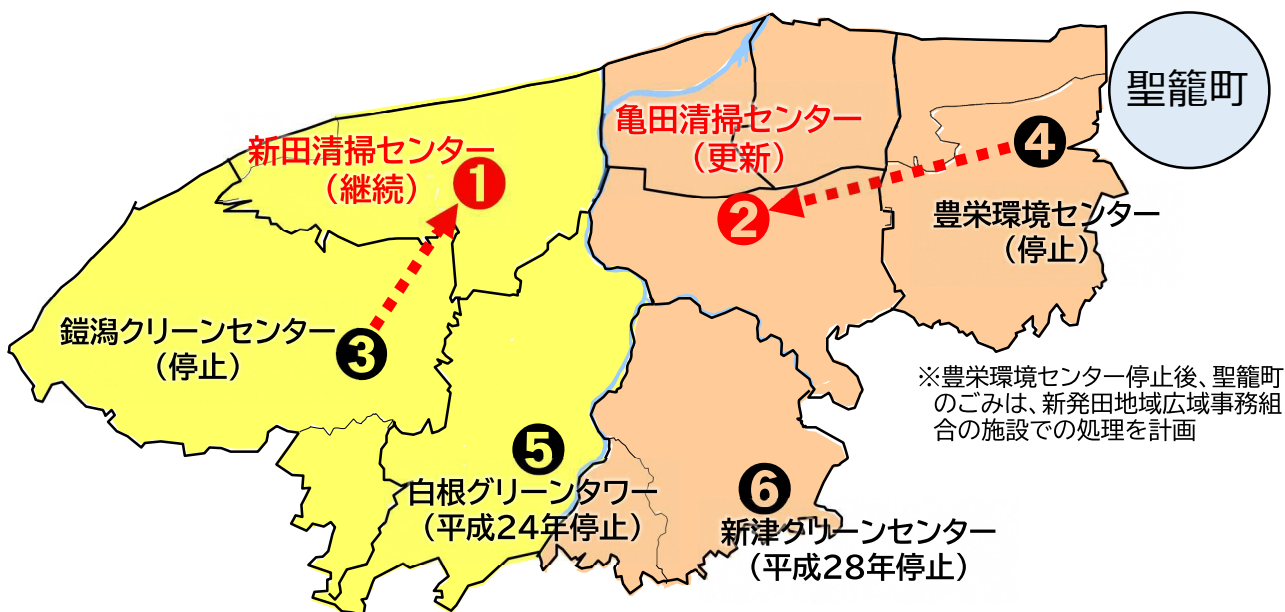
令和6年1月
新 潟 市



現在、新潟市の廃棄物処理施設の中で、焼却施設は4施設あります。このうち、豊栄環境センター(北区)、亀田清掃センター(江南区)、鎧潟クリーンセンター(西蒲区)の3施設が更新もしくは更新を検討する時期を迎えており、また、今後は人口の減少等により、ごみ量の減少が見込まれる状況にあります。

令和元年度の新潟市清掃審議会において、安定かつ効率的な処理体制の構築に向け、点検・故障時のリスク分担、稼働コスト及び温室効果ガス排出量低減の観点を踏まえ、稼働年数が短い新田清掃センターと更新施設の計2施設体制とすることが妥当との答申を受け、令和2年3月に策定した新潟市一般廃棄物処理基本計画に今後の方針を明示しました。

2施設体制について、更新する施設は、立地条件や必要面積などから、亀田清掃センター及び同敷地を選定し、環境への配慮や安定稼働はもとより、廃棄物発電(再生可能エネルギー)の更なる向上と、災害時においても稼働できる防災拠点としての機能を加え整備を進めます。



2施設体制以降も、市民の直接搬入ごみの受入は上記6施設で継続します。

対象事業実施区域及び事業の概要について

対象事業実施区域の位置



事業計画(新施設)の概要

項目	計画諸元
事業者	新潟市
所在地	新潟市江南区亀田1835番地1
処理能力／1日の稼働時間	1日あたり420トン(140トン×3炉)* / 24時間連続運転
処理方式／処理対象	ストーカ式焼却方式 / 燃やすごみ、し尿処理施設残渣
煙突高さ	59メートル
排水	下水道接続

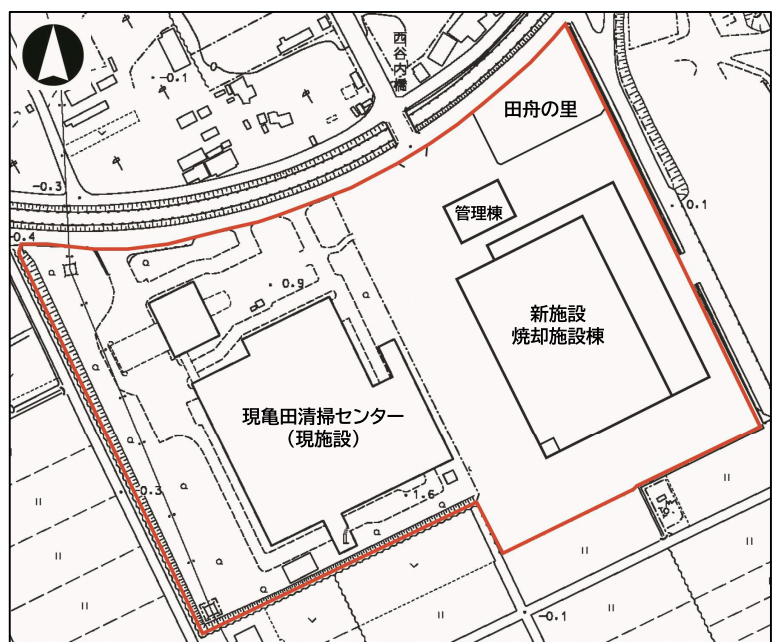
*環境影響評価準備書では459トン/24時間連続運転としていましたが、ごみ量実績等を踏まえて変更しました。

新施設の基本方針

新施設は、次の5つの基本方針を踏まえ整備を進めます。

概念	内容
環境にやさしい	排ガス等による環境負荷の低減
安心・安全	安定で確実な処理
低炭素社会を推進	省エネルギー、効率的な発電等のエネルギー生産
災害に強い	避難所等の防災拠点活用 不測の事態に備えた強靱化
経済性	効率的な処理

配置計画



対象事業実施区域の東側に新施設を建設し、稼働後に現施設を解体します。なお、温浴施設(田舟の里)は継続します。
*新施設の配置は、今後プラントメーカーの提案を受けて決定します。

工事計画(予定)

計画設計・工事\年度		令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	
新施設 ※1	実施設計	←→							
	旧施設の地下部解体工事	←→							
	焼却施設建設工事	杭工事・土工事・地下躯体工事		←→					
		地上建築工事			←→				
		プラント工事			←→				
		外構工事				←→			
		試運転					←→		
稼働						←→			
現施設 ※2	解体設計					←→			
	解体工事						←→		

※1 環境影響評価準備書では工期を4年としていましたが、働き方改革等を踏まえ、5年に変更しました。

※2 現施設の解体設計、解体工事時期は未定です。参考として、ここでは早期着手した場合の工程を示しています。

環境影響評価の内容

本事業の工事中や供用時(完成後)には、次のような環境への影響を及ぼす要因が考えられます。これらの事業による影響要因(工事中、供用時)や周辺地域の状況を踏まえて、環境影響評価を行う項目を選定し、調査・予測・評価を行った結果をとりまとめました。

工事中



建設工事の実施
(現施設の解体工事を含む)



資材及び機械の運搬に
用いる車両の運行

供用時



施設の配置・稼働及び
煙突からの排ガス



廃棄物運搬車両の運行

環境への影響

大気への影響
 景観への影響
 水質への影響
 悪臭の発生
 騒音の発生
 低周波音の発生
 振動の発生
 温室効果ガスの発生
 その他

環境影響評価項目

事業特性・地域特性及び市民の皆様や専門家(新潟市環境影響評価審査会)からのご意見を踏まえ、「新潟市環境影響評価技術指針」に基づき、環境影響評価の対象項目を選定しました。

なお、環境影響評価準備書以降の事業計画変更(施設規模、工期)による各項目への影響等を検討し、影響が増加するおそれがある「施設の稼働に伴う温室効果ガス」について、評価書において再度予測・評価を行いました。

影響要因の区分			工事の実施※1			土地又は工作物の存在及び供用				
			建設機械の稼働	資材及び機械の運搬に用いる車両の運行	造成工事及び施設の設置等	地形改変後の土地及び施設の存在	施設の稼働 排ガス	機械等の稼働	廃棄物の搬出入	廃棄物の発生
環境要素の区分										
大気環境	大気質	硫黄酸化物					●			
		窒素酸化物		●			●		●	
		浮遊粒子状物質		●			●		●	
		粉じん等	●	●					●	
		有害物質					●			
	騒音	騒音	●	●				●	●	
	振動	振動	●	●				●	●	
	低周波音	低周波音						●		
	悪臭	悪臭				●	●			
水環境	水質	水の濁り			●					
有害物質				●						
地質環境	地盤	地盤沈下			●					
	土壌	土壌汚染			●					
動物		ハクチョウ類	●	●	●	●				
景観		主要な眺望点等				●				
廃棄物等		建設工事に伴う副産物			●					
		廃棄物			●				●	
温室効果ガス等		二酸化炭素等	●	●		●※2	●※2	●		
文化財		埋蔵文化財			●	●				

※1 工事の実施には現施設の解体工事を含まず。

※2 準備書作成以降の事業計画の変更に伴い、影響が増加する可能性があるため、評価書において再予測・評価しました。

環境影響評価の流れ



大気質(施設の排ガス)

ごみの焼却により発生する排ガスの周辺環境への影響について、周辺6地点において現況を調査し、新施設の煙突から排出する排ガス量、各物質の濃度等を基に予測を行いました。

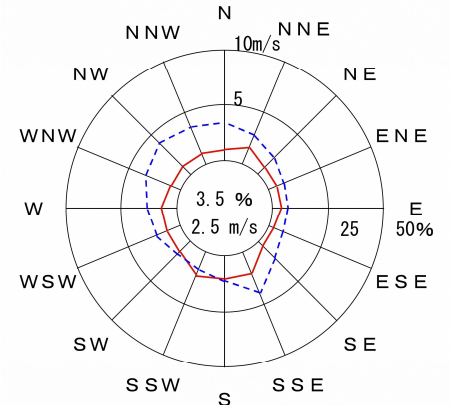
調査結果

- 対象事業実施区域内及び周辺6地点において、季節ごとの大気質を調査しました。
- また、予測条件設定のため、St.1で1年間の気象状況(風向・風速等)を調査しました。



大気質の調査地点(施設の排ガス)

番号	調査地点
St.1	対象事業実施区域
St.2	YOUなかの保育園付近
St.3	五月町第二開発公園
St.4	石山居村公園
St.5	山二ツツワボ-ル場
St.6	新潟向陽高校



風向・風速(St.1気象)

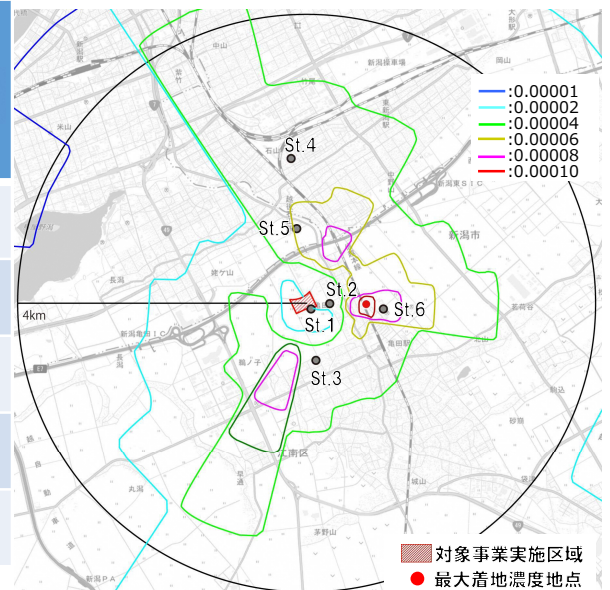
調査結果(期間平均値)	単位	St.1	St.2	St.3	St.4	St.5	St.6
二酸化硫黄	ppm	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001
窒素酸化物	ppm	0.004	0.005	0.004	0.006	0.005	0.004
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.012	0.010	0.010	0.011	0.009	0.008
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.0078	0.0074	0.0077	0.0074	0.0077	0.0074
水銀	μg/m ³	0.0017	0.0016	0.0016	0.0016	0.0017	0.0016
塩化水素	ppm	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001

現況濃度の調査結果は、全ての項目、全ての地点で、環境基準等より十分に低い値となっていました。

予測結果
【長期平均濃度】

長期平均濃度予測とは、施設の排ガスによる大気質への影響程度を、長期的な年平均濃度として予測したものです。

項目	現況濃度	最大着地濃度地点※1の予測結果(現況+寄与濃度)		評価基準
		年平均値	日平均値※2	
二酸化硫黄※3	0.001	0.001069	0.003	日平均 0.04以下
二酸化窒素※3	0.004	0.004105	0.011	日平均 0.06以下
浮遊粒子状物質※3	0.01	0.010034	0.027	日平均 0.10以下
ダイオキシン類	0.008	0.008344	—	年平均 0.6以下
水銀	0.0016	0.001703	—	年平均 0.04以下



施設の稼働に伴う水銀の寄与濃度(コンター図)

※1：最大着地濃度は、対象事業実施区域から東に約780mの地点に出現
 ※2：二酸化硫黄及び浮遊粒子状物質は、年間2%除外値、二酸化窒素は、年間98%値
 ※3：評価基準と比較するため、排ガス公害防止基準の「硫黄酸化物」により「二酸化硫黄」を、「窒素酸化物」により「二酸化窒素」を、「ばいじん」により「浮遊粒子状物質」を予測

予測結果
【短期高濃度】

短期高濃度予測とは、施設の排ガスによる大気質への影響が、大気安定度の変化により短期的に高濃度で出現した場合の1時間値濃度を予測したものです。

項目	単位	現況濃度	予測結果(現況+寄与濃度)				評価基準
			大気安定度不安定時	上層逆転層発生時	逆転層崩壊時	ダウンウォッシュ・ダウドラフト発生時	
二酸化硫黄	ppm	0.002	0.00466	0.00734	0.00991	0.00358	1時間値が0.1以下
二酸化窒素	ppm	0.025	0.02601	0.02725	0.03666	0.02554	1時間曝露として0.2以下
浮遊粒子状物質	mg/m ³	0.058	0.05933	0.06067	0.06196	0.05879	1時間値が0.20以下
塩化水素	ppm	0.003	0.00699	0.01102	0.01487	0.00538	0.02以下
最大着地濃度地点(発生源からの距離)			780m	780m	270m	660m	-

評価

新施設(排ガス)の公害防止基準

- 大気汚染防止法等の法令や現施設より厳しい排ガスの公害防止基準値を設定することで、全ての項目が評価基準より十分に低い値となっています。
- 排ガスの有害物質については、施設の適正運転により、発生を抑制し、また、排ガス処理設備において、薬剤やバグフィルタにより、有害物質を取り除いた後に、煙突から大気に放出されます。
- 施設では、運転状況や排ガスの常時監視を行うとともに、定期的に排ガス測定を行い、結果を公表します。

項目	単位	新施設		(参考)現施設
		法基準	公害防止基準	
硫黄酸化物	ppm	約3,000※	20	100
窒素酸化物	ppm	250	50	200
ばいじん	g/m ³	0.04	0.01	0.02
塩化水素	ppm	430	30	215
ダイオキシン類	ng-TEQ/m ³	0.1	0.1	0.5
水銀	μg/m ³	30	30	50

※排ガス量、煙突高さによる概算値

悪臭(排ガス、施設からの漏洩)

悪臭については、煙突排ガスの有害物質と同様の6地点、また、対象事業実施区域(St.1)では敷地境界の風上、風下で調査を実施し、排ガスと施設からの漏洩それぞれについて、予測・評価しました。

調査結果

項目	St.1(敷地境界)		St.2	St.3	St.4	St.5	St.6	類似施設煙突排ガス
	風上	風下						
臭気指数	10未満	10未満	10未満	10未満	10未満	10未満	10未満	※29
臭気指数の評価基準	13以下		12以下	10以下	10以下	10以下	10以下	-
特定悪臭物質(22物質)	全ての物質が定量下限値未満		-	-	-	-	-	-

※新施設と同じストーカ式焼却方式である新田清掃センター煙道の排ガスを測定(臭気指数29)

予測結果(排ガス)

- 新施設の排ガス量等、類似施設の排ガスの臭気指数を用い、悪臭の影響が最も大きいと考えられる気象条件における周辺への影響を予測しました。
- 最大着地濃度地点(施設から半径270m)において臭気指数10未満(0.4)となっており、ほかの地点でも同様と予測されます。

予測結果(施設からの漏洩)

- 現施設(St.1)の敷地境界の調査の結果、風下においても臭気指数は10未満であり、また、特定悪臭物質濃度は全ての物質で定量下限値未満となっていました。
- 新施設の構造及び環境保全措置は現施設と同等又はそれ以上となるため、新施設の供用後においても評価基準を下回ると予測されます。

評価

- ごみによる悪臭は、高温焼却することで、酸化分解され、また、施設では、ピット内の負圧化やプラットホーム出入口へのエアカーテンの設置により、悪臭が施設外部に漏洩することを防止します。
- これらの措置により、排ガス、施設からの漏洩による悪臭は、いずれも評価基準を満足する予測結果となりました。

騒音・振動・低周波音

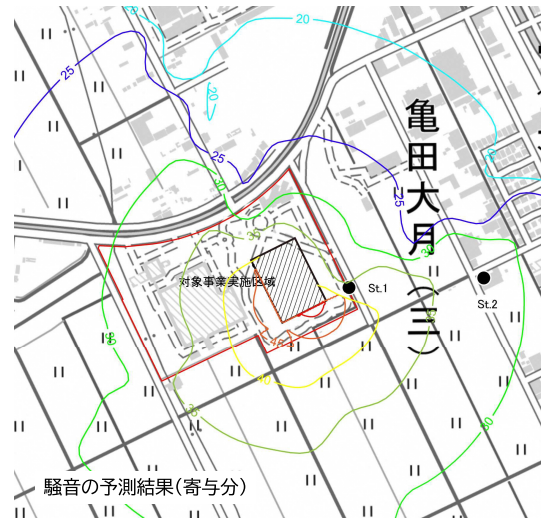
施設の機械の稼働による騒音・振動・低周波音について現況を調査し、騒音・振動は新施設の計画(音源となる設備の種類、台数、パワーレベル等)を、低周波音は類似施設の調査結果を基に、影響を予測しました。

予測結果【騒音】

(単位:dB)

予測地点	予測項目	時間区分	現況	予測結果 (現況+寄与)	評価基準
【St.1】 敷地境界	時間率騒音 レベル	朝	52	52	60以下
		昼間	50	50	65以下
		夕	47	47	60以下
		夜間	46	46	50以下
【St.2】 YOUなかの 保育園	等価騒音 レベル	昼間	60	60	60以下
		夜間	46	46	50以下

現況の騒音に対し、施設の寄与分は小さく、いずれの地点、時間区分においても評価基準以下となっています。

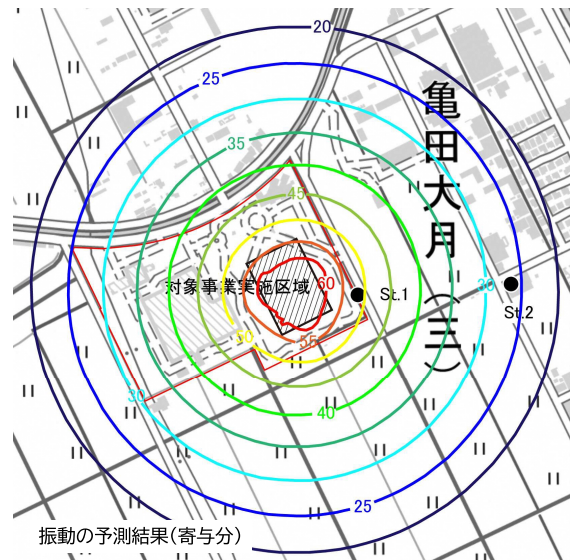


予測結果【振動】

(単位:dB)

予測地点	時間区分	現況	予測結果 (現況+寄与)	評価基準
【St.1】 敷地境界	昼間	29	52	65以下
	夜間	27	52	60以下
【St.2】 YOUなかの 保育園	昼間	38	38	65以下
	夜間	27	30	60以下

振動は、いずれの地点、時間区分においても評価基準以下となっています。



予測結果【低周波音】

(単位:dB)

予測地点		予測項目	現況	寄与分	予測結果	評価の参考値
St.1	対象事業実施区域敷地境界 (YOUなかの保育園側)	L ₅₀	74	—	78	90以下
		L _{G5}	74	—	83	100以下
St.2	YOUなかの保育園 付近	L ₅₀	72	62	72	90以下
		L _{G5}	78	67	78	100以下

評価

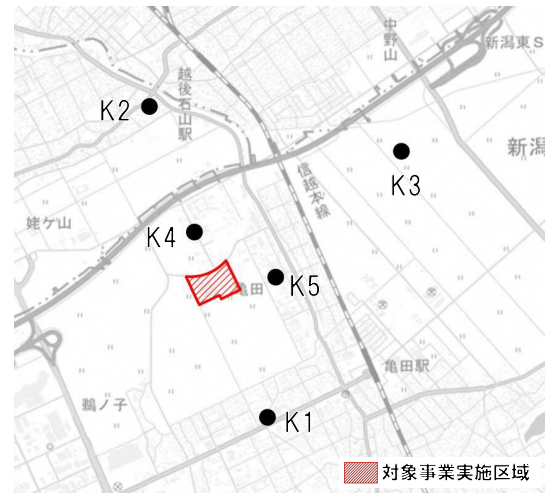
- 設備・機器を原則屋内に設置することで、騒音・振動・低周波音いずれも対象事業実施区域の敷地境界(St.1)、YOUなかの保育園(St.2)において、評価基準を満足しています。
- 施設の計画では、吸音材や防振ゴム等を導入し、環境影響の低減を図ります。

景観

調査地点

事業による景観への影響を予測・評価するため、施設が視認できる主要な眺望点、直近の住宅地等において季節ごとに調査を行いました。

番号	調査地点
K1	亀田排水路公園
K2	山ニツ諏訪神社
K3	すごぼりの桜並木
K4	市道南6-79号線(搬入道路)
K5	亀田大月地区(直近の住宅地)



予測結果

現況写真に新施設の完成予想図を合成したフォトモンタージュにより予測しました。

※詳細な外観は設計段階で決定するため、事業計画から建造物の大きさを設定し、色彩は現施設と同様としています。

K1 亀田排水路公園(夏季)



現在



将来

K3 すごぼりの桜並木(春季)



現在



将来

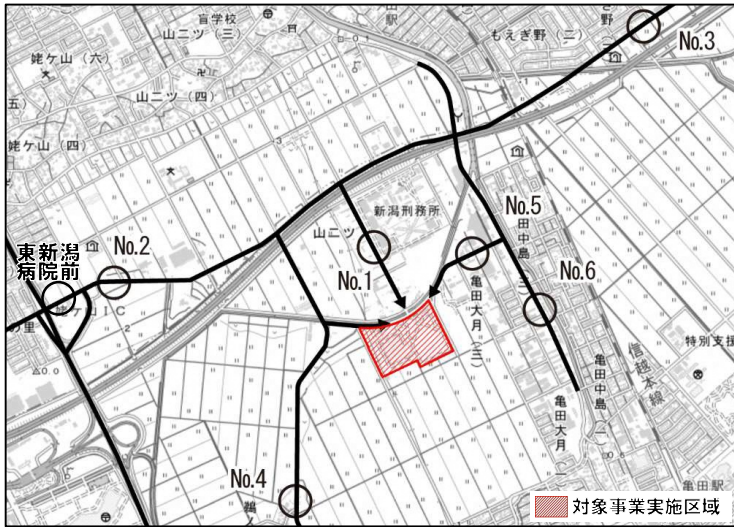
評価

- 新施設は、現施設と同程度の大きさとなるため、景観の大きな変化はありません。
- 新潟市景観計画の景観形成基準を踏まえた建物の意匠・色彩への配慮、敷地内の植栽等により、周辺環境との調和を図ります。

大気質・騒音・振動

調査・予測地点

廃棄物運搬車両の調査地点は、主な搬入ルート上の7地点とし、大気質・騒音・振動・交通量等を調査し、新施設への廃棄物運搬車両による影響を予測しました。



予測結果【大気質(降下ばいじん)】

地点	降下ばいじん予測結果 (単位:t/km ² /月)				評価基準
	春季	夏季	秋季	冬季	
No.1	0.72	0.67	0.82	0.46	10以下
No.2	0.35	0.33	0.29	0.20	
No.3	0.05	0.08	0.10	0.08	
No.4	0.10	0.12	0.11	0.11	
No.5	0.01	0.01	0.01	0.01	
No.6	0.05	0.05	0.06	0.03	
病院前	0.14	0.21	0.28	0.22	

予測結果【大気質(二酸化窒素)】

予測結果【大気質(浮遊粒子状物質)】

地点	二酸化窒素(単位:ppm)				浮遊粒子状物質(単位:mg/m ³)			
	現況	予測結果(現況+寄与分)		評価基準	現況	予測結果(現況+寄与分)		評価基準
		年平均値	日平均値			年平均値	日平均値	
No.1	0.005	0.00535	0.016	日平均値 0.06以下	0.012	0.012018	0.033	日平均値 0.10以下
No.2	0.005	0.00536	0.016		0.011	0.011018	0.031	
No.3	0.005	0.00532	0.016		0.012	0.012014	0.033	
No.4	0.005	0.00522	0.016		0.012	0.012009	0.033	
No.5	0.005	0.00507	0.016		0.012	0.012004	0.033	
No.6	0.005	0.00526	0.016		0.012	0.012011	0.033	
病院前	0.005	0.00526	0.016		0.011	0.011012	0.031	

予測結果【騒音】

予測結果【振動】

地点	騒音(等価騒音レベル) 単位:dB				振動(時間率振動レベル) 単位:dB			
	現況	増加分	予測結果	評価基準	現況	増加分	予測結果	評価基準
No.1	64	1	65	65以下	48	3	51	70以下
No.2	※ 73	0	73	60以下	44	0	44	65以下
No.3	※ 67	0	67	60以下	41	0	41	65以下
No.4	※ 68	0	68	60以下	50	-1	49	65以下
No.5	※ 62	0	62	65以下	41	0	41	70以下
No.6	※ 69	0	69	70以下	42	0	42	65以下
病院前	※ 73	0	73	60以下	44	0	44	65以下

※交通量の多さや周辺状況から、現況が評価基準を超えていますが、廃棄物運搬車両による騒音の増加分は0dBとなっています。

評価
【大気質・
騒音・振動】

- No.1地点の台数が多く、影響が最も大きい予測結果となっていますが、その地点を含め、全ての地点で評価基準(現況非悪化)を満足しています。
- 住宅地付近の走行を避ける搬入ルートを設定しております。また、環境に配慮した車両の導入促進等により各項目の低減を図ります。

大気質・騒音・振動

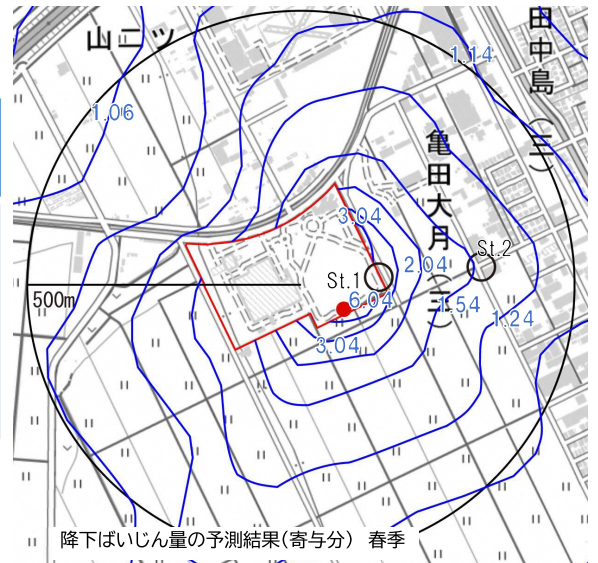
工事では、バックホウやクレーンなど様々な建設機械を使用します。計画する工程と使用する建設機械の台数等から、影響が最大となる時期における大気質(降下ばいじん)・騒音・振動を予測評価しました。

調査・予測結果【大気質(降下ばいじん)】

(単位:t/km²/月)

地点	予測結果				評価基準
	春季	夏季	秋季	冬季	
最大着地量地点	6.6	9.3	8.4	7.7	10以下
St.1	4.8	7.5	4.1	3.1	
St.2	1.4	1.8	1.3	1.1	

全ての地点で、評価基準を満足しています。

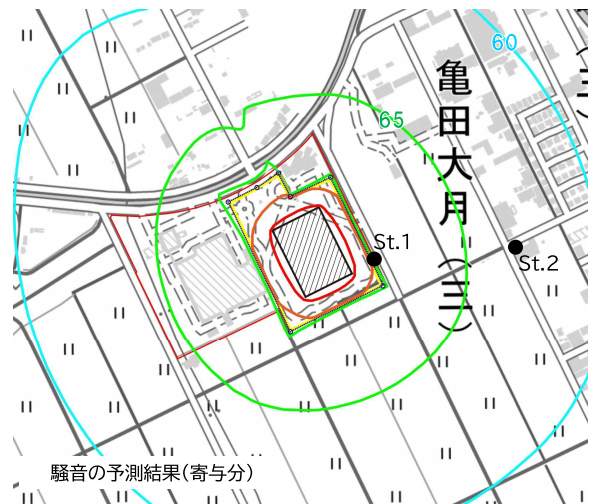


調査・予測結果【騒音】

時間率騒音レベル(LA5) (単位:dB)

地点	時間区分	現況	予測	評価基準
St.1	昼間	50	67	85以下
St.2	昼間	64	66	現況非悪化

- St.1について、対象事業実施区域は、法令に基づく騒音の規制区域ではありませんが、規制区域に適用される基準(85dB)を満足しています。
- St.2について、上昇の程度は小さく、現況の著しい悪化とは予測されませんでした。

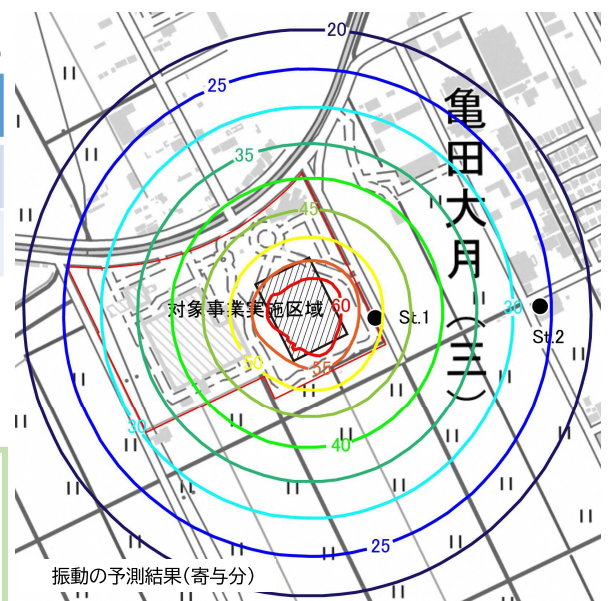


調査・予測結果【振動】

時間率振動レベル(LA10) (単位:dB)

地点	時間区分	現況	予測	評価基準
St.1	昼間	29	66	75以下
St.2	昼間	38	43	現況非悪化

- St.1について、対象事業実施区域は、法令に基づく振動の規制区域ではありませんが、規制区域に適用される基準(75dB)を満足しています。
- St.2について、1割程度上昇していますが、人の感覚閾値とされる55dBを下回っており、現況非悪化と考えられます。



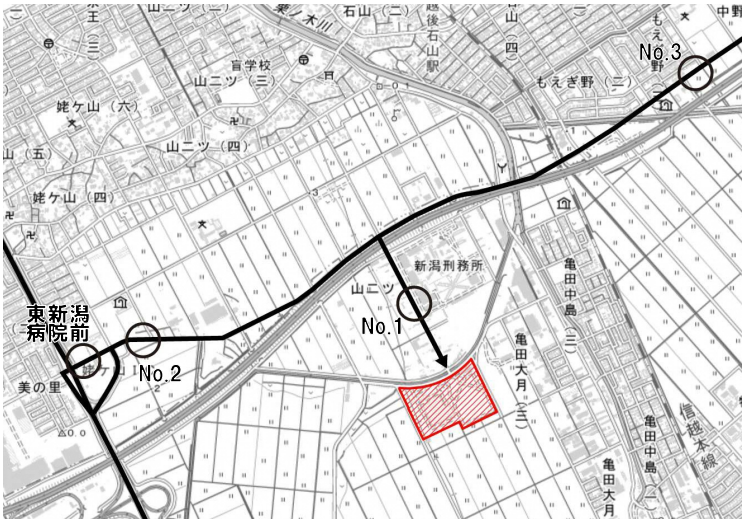
評価

- 建設機械の稼働に伴う項目は全ての項目・地点において評価基準を満足しています。
- また、工事では、仮囲いの設置、散水、環境に配慮した重機の使用、作業時間への配慮等により周辺環境への影響を低減します。

大気質・騒音・振動

調査・予測地点

資材等運搬車両の調査地点は、主な運行ルート上の3地点とし、大気質・騒音・振動・交通量等を調査し、運行による影響を予測しました。



予測結果【大気質(降下ばいじん)】

地点	降下ばいじん予測結果 (単位:t/km ² /月)				評価基準 (t/km ² /月)
	春季	夏季	秋季	冬季	
No.1	0.35	0.33	0.40	0.22	10以下
No.2	0.42	0.39	0.34	0.24	
No.3	0.10	0.14	0.19	0.15	
病院前	0.17	0.25	0.34	0.27	

予測結果【大気質(二酸化窒素)】

地点	二酸化窒素(単位:ppm)			評価基準
	現況	予測結果		
		年平均値	日平均値	
No.1	0.005	0.00525	0.016	日平均値 0.06以下
No.2	0.005	0.00537	0.016	
No.3	0.005	0.00533	0.016	
病院前	0.005	0.00526	0.016	

予測結果【大気質(浮遊粒子状物質)】

地点	浮遊粒子状物質(単位:mg/m ³)			評価基準
	現況	予測結果		
		年平均値	日平均値	
No.1	0.012	0.012014	0.033	日平均値 0.10以下
No.2	0.011	0.011018	0.031	
No.3	0.012	0.012014	0.033	
病院前	0.011	0.011013	0.031	

予測結果【騒音】

地点	騒音(等価騒音レベル) 単位:dB			
	現況	増加分	予測結果	評価基準
No.1	64	1	65	65以下
No.2	※ 73	1	74	60以下
No.3	※ 67	1	68	60以下
病院前	※ 73	1	74	60以下

予測結果【振動】

地点	振動 単位:dB			
	現況	増加分	予測結果	評価基準
No.1	48	2	50	70以下
No.2	44	0	44	65以下
No.3	41	1	42	65以下
病院前	44	0	44	65以下

※交通量の多さや周辺状況から、現況が評価基準を超えていますが、資材等運搬車両による著しい増加はありません。

評価
【大気質・
騒音・振動】

- 大気質、騒音、振動の項目とも全ての地点で評価基準を満足しています。
- 環境に配慮した車両の導入促進や車両の分散化等により、環境への影響低減を図ります。

水質(水の濁り、有害物質)

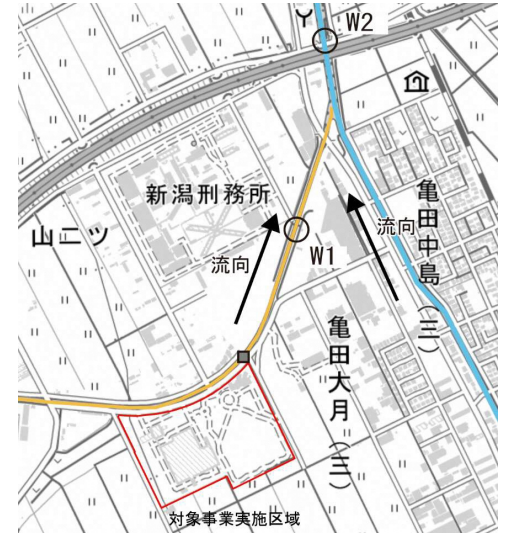
- 工事中の裸地への降雨により発生する濁水について、排水先河川等への影響を予測・評価しました。
- また、周辺井戸の地下水や工事用地内の土壌から基準を超える砒素が確認され、工事用地の地下水にも含まれるおそれがあることから、砒素の影響を低減するための措置について検討しました。

調査・予測結果【水の濁り】

浮遊物質量(SS)濃度 (単位:mg/L)

地点	時期区分	現況	予測結果	
			日平均降水量時	日最大降水量時
W1 山崎排水路	豊水期	35	35	37
	低水期	28	28	33
W2 栗ノ木川	豊水期	87	87	87
	低水期	35	35	36

排水の浮遊物質量は、仮設処理等で150mg/L以下にするものとし、河川等の水の濁りは降水量や河川流量等から予測



評価

- 工事中の濁水は、仮設処理等を行うことで、排水先河川への影響は十分に小さくなります。
- 地下水については、砒素が含まれる前提で、揚水量を抑える工法や薬剤処理等を行うことにより周辺への影響を回避・低減します。
- 工事中の排水について、水質モニタリングを行い、仮設処理設備等を適切に管理します。

土壌汚染・地盤沈下

調査結果【土壌汚染】

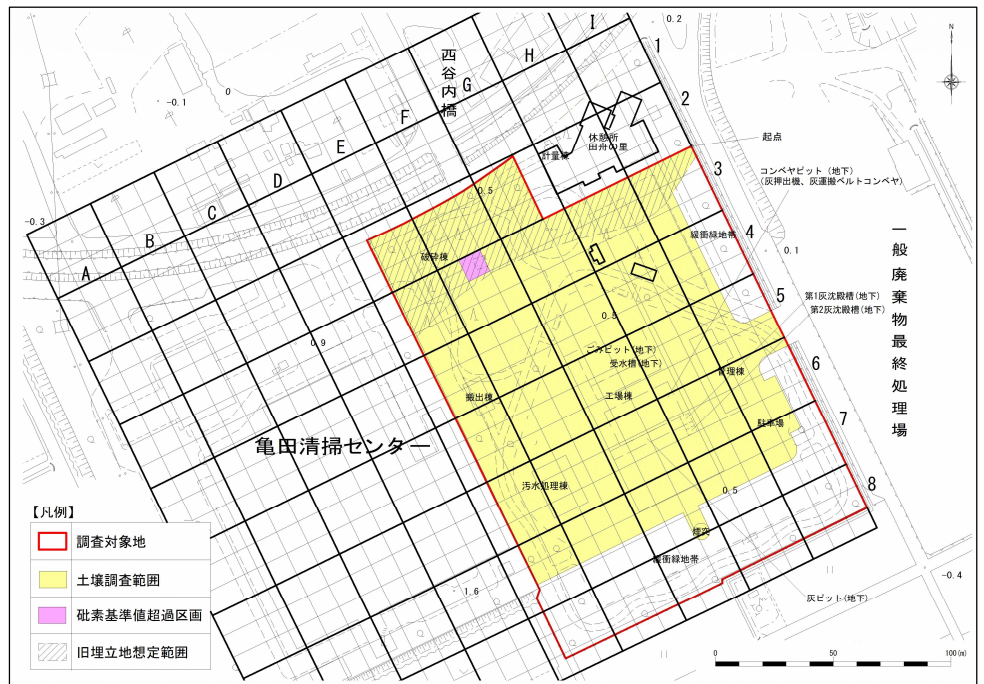
土壌汚染対策法に基づき、対象事業実施区域内の土壌調査を実施しました。

【調査結果】

調査した区画:208区画

基準を超過した区画 1区画

- 超過の状況
- ・砒素溶出量 0.013mg/L (基準 0.01mg/L)
 - ・汚染土壌の深度 GL-5.0m~7.0m



調査結果【地盤沈下】

対象事業実施区域内の地下水位を調査し、地表面から-1.67m~-3.11mとなっていました。

評価

- 土壌汚染が確認された区画では、本事業において汚染深度までの掘削は行わない計画であり、また、掘削等を行う場合は、「土壌汚染対策法」に基づいた適切な対策等を実施し、影響の低減を図ります。
- 地盤沈下について、本事業の掘削深度(約13m)から地下水位に影響を与える可能性があるため、地下水位を極力低下させない工法を採用し、影響の低減を図ります。

温室効果ガス

予測結果・評価

- 工事では、環境に配慮した建設機械等の採用等により、実行可能な範囲で低減が図られると考えます。
- 供用時では、施設の統合により走行距離が延びるため、廃棄物運搬車両による二酸化炭素排出量は増加しますが、施設の統合及び更新による廃棄物発電量の増加、また、燃料等使用量の削減により、二酸化炭素排出量が大きく減少するため、現在の4施設体制を継続した場合と比べ、年間19,140t削減でき、実行可能な範囲で低減が図られると考えます。

(単位:t-CO₂/年)

施設名	施設の稼働					小計	廃棄物運搬車両	合計
	廃棄物の焼却	燃料の使用	電力の使用	外販電力				
4施設体制	現・亀田清掃センター	40,688	170	308	△6,901	78,204	1,992	80,196
	新田清掃センター	37,440	491	172	△11,791			
	鎧湯クリーンセンター	6,684	3,025	1,490	△16			
	豊栄環境センター	5,293	155	896	0			
2施設体制	新・亀田清掃センター	48,334	523	212	△19,745	58,813	2,243	61,056
	新田清掃センター	41,757	545	303	△13,116	〔4施設体制との差 △19,391〕	〔4施設体制との差 +251〕	〔4施設体制との差 △19,140〕

廃棄物等

評価

下記により、廃棄物等への影響について実行可能な範囲で低減が図られると考えます。

- 工事では、掘削工事等で発生する土砂の敷地内での再利用や建設副産物の分別と再資源化に努める。
- 供用時では、3Rの推進により焼却処理量を低減するとともに、適正な燃焼管理により灰発生量の低減を図る。

文化財

評価

- 本市歴史文化課が実施した、対象事業実施区域内の試掘調査結果、また、過去のボーリング調査結果等を確認した結果、埋蔵文化財は発見されなかったため、影響を及ぼさないと考えます。

動物(ハクチョウ類)

ハクチョウ類の採餌場や飛行コースへの影響について予測評価を行いました。

調査結果

- 対象事業実施区域周辺の半径500mの範囲で、ハクチョウ類の飛行コースと採餌の状況を調査しました。
- ハクチョウ類のほか、国が指定する天然記念物であるオオヒシクイやマガンの飛行が確認されました。



予測結果

- 本事業は、対象事業実施区域内で施設を建替えるものであり、採餌場となっている水田への影響はなく、また、同区域上空を飛行するハクチョウ類は現施設の煙突を避けるように飛行していたほか、これまでに現施設でのバードストライクの事例もないことから、影響は軽微と予測されました。

評価

下記により、ハクチョウ類への影響について実行可能な範囲で低減が図られると考えます。

- 工事や、供用時の騒音・振動対策により、ハクチョウ類への影響の低減を図ります。
- 新施設では、ガラスの多用を避ける等の意匠面の配慮を行い、バードストライクの防止を図ります。

事後調査等について

- 新潟市環境影響評価技術指針に基づき、事後調査を実施します。
- また、工事や施設の運転時におけるモニタリングを実施します。

事後調査等		調査・モニタリングする項目
事後調査		施設の稼働による騒音、低周波音、騒音
モニタリング	工事中	建設機械の騒音、振動 工事用地からの排水(浮遊粒子状物質、砒素)
	供用時	排出ガスは、施設の計器により常時監視します。 また、定期的に、排出ガスの測定を行い、結果を公表します※

※新潟市の焼却施設では、定期的に、排出ガスや焼却灰等の測定を行い、ホームページ等で公表しています。

環境影響評価書の縦覧について

- 公告日 令和6年2月5日(月)
- 縦覧期間 令和6年2月5日(月)～令和6年3月5日(火)
- 縦覧場所・時間

場所	曜日	時間
循環社会推進課・環境対策課	土・日・祝日を除く	8:30～17:30
亀田清掃センター	土・日・祝日を除く	8:30～17:00
東区役所・中央区役所・江南区役所	土・日・祝日を除く	8:30～17:30
中央図書館(ほんぽーと)	第1水曜日、第2金曜日を除く	月～土 10:00～20:00 日・祝 10:00～17:00
江南区文化会館	第3金曜日除く	月～土 9:00～21:30 日・祝 9:00～17:30

縦覧の詳細は、新潟市ホームページをご覧ください。

評価書はホームページでもご覧になれます。「新潟市 焼却施設 環境影響評価」で検索ください。

お問い合わせ先

新潟市環境部循環社会推進課
整備グループ
TEL 025-226-1427
FAX 025-222-7032
Mail junsui@city.niigata.lg.jp

本市のごみ処理事業へのご理解とご協力をお願いいたします。



環境影響評価手続きの流れ

■ 環境影響評価制度とは

規模が大きく環境に影響を及ぼすおそれがある事業を行うときに、事業者自らが、事業実施前に、周辺環境の状況を調査し、事業実施により環境にどのような影響を与えるかについて、予測と評価を行い、その結果を公表し、市民や専門家等の意見を聴き、それらを踏まえて環境の保全の観点からより良い事業計画を作り上げていくための制度です。

本事業は、「新潟市環境影響評価条例」に基づき、手続きを行います。

手続きフロー

